



地域と自然の共創を学ぶ



「東北福祉大学」学生による体験学習

5月16日に東北福祉大学の学生による田植え体験学習が、横川地区の水田で行われました。今回の体験学習の目的は、「結」をはじめとする「土地」に根差した「協業」によって培われた先人の経験を追体験し、限りある自然を活用しながら食と農という人間の基本的な営みを学ぼうというものでした。

田植えは、水田の所有者である佐々木勝江さんをはじめ、和田達さん、秋葉常幸さん、佐藤俊夫さんら4名の農業学習指導教員の指導を受けながら、作業が進められました。参加した学生40名の中には、小中学生の頃に田植えをしたことがあるという学生や、まったく初めてという学生もいました。

東北福祉大学千年塾による米づくりは、干蒲地区、横川地区に続き新たに関地区内の水田も追加され、約8haで行われます。



▲佐々木さんや千年塾の方々がサポート



▲初めてのぬかるみに戸惑っていましたが



▲コツを掴み集中していました



▲広い水田に丁寧に手植えしました